

2022 年度 個人研究実績・成果報告書

2023 年 4 月 1 日

所属	基盤教育機構	職名	准教授	氏名	影浦亮平
研究課題	CSR を中心とした、個人や団体の活動と制度の倫理的基盤の研究				
研究キーワード	CSR, SDGs, 倫理、哲学思想、市民、文化、教育	当年度計画に対する達成度	2.順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が達成できた		
関連するSDGs項目	8. 働きがいも経済成長も	12. つくる責任 つかう責任	4. 質の高い教育をみんなに	10. 人や国の不平等をなくそう	
<p>1. 研究成果の概要</p> <p>論文 3 本、翻訳 1 本、書評 1 本、記事 5 本、研究発表 4 回、通訳 1 回、市民講座 1 回という研究成果を 2022 年度は出すことができた。SDGs に直接関連する業績が多かった。今年度、フィールド調査等をしつつも、まだ論文にできていないものも存在する。そうしたものも含めて、引き続き、次年度でも同じ研究をより発展させる形で継続させていきたい。</p> <p>2. 著書・論文・学会発表等（査読の有無及び海外研究機関等の研究者との国際共著論文がある場合は必ず記載）</p> <p>【論文（査読あり）】</p> <p>影浦亮平(2023)、共著、論文「江戸期から現代までの日本社会における登山の動機 —高尾山・筑波山を事例として、観光の観点から」、国際言語文化学会 日本学研究、第 8 号、pp. 1-16</p> <p>【著書・論文（査読なし）】</p> <p>影浦亮平（2023）、共著、論文「ステークホルダーが主張する正義が事業戦略に与える影響—サーキュラーエコノミーの浸透を中心に—」、千葉商大論叢、60 巻 3 号、pp. 107-118</p> <p>影浦亮平（2022）、単著、論文「SDGs に見える社会思想の今」、専修大学社会科学研究所月報、No. 707、pp. 29-39</p> <p>ベンスーサン、ジェラルド(2022)、「宗教、思索、哲学——その境界を揺さぶるユダヤ教」、影浦亮平訳、港、第 27 号、神戸・ユダヤ文化研究会、pp. 2-11</p> <p>影浦亮平(2022)、単著、「デザインされるまなざし」（ハナムラチカヒロ著『まなざしの革命』の書評）、モルフオロギア、第 44 号、pp. 104-105</p> <p>影浦亮平(2023)、「「紛争鉱物」で学ぶ、環境問題対応と社会問題対応が一致しないワケ」、週刊エコノミスト Online</p> <p>影浦亮平(2022)、「発達障害の子どもへの「支援」は本当に必要か」、週刊エコノミスト Online</p> <p>影浦亮平(2022)、「旧統一教会と政治家の関係に見る「政教分離と主権」の本質」、週刊エコノミスト Online</p> <p>影浦亮平(2022)、「「エシカル消費」が政治や社会を変える力に」、週刊エコノミスト Online</p> <p>影浦亮平(2022)、「グローバル人材に求められる「グローバル・シティズンシップ」の観点」、月刊先端教育、2022 年 6 月号</p> <p>【学会発表等】</p> <p>影浦亮平(2023)、共同、「登山観光の動機としての史的経験及び人間観—高尾山・筑波山を事例として—」、国際言語文化学会カルチュラル・スタディーズ研究会、第 12 回</p> <p>影浦亮平(2022)、単独、「SDGs における個人主義と共同体主義」、国際言語文化学会 日本語・日本語教育研</p>					

究会 カルチュラル・スタディーズ研究会 第6合同研究会

影浦亮平(2022)、単独、「SDGsの思想的背景の検討」、経済理論学会、第70回大会

影浦亮平(2022)、共同、「ベンヤミンと読み直す都市と映画—歴史に回収されることのない他者への視線から」、カルチュラル・タイフーン 2022、カルチュラル・スタディーズ学会

(通訳) ジェラルド・ベンスーサン(2022)、講演「思索、宗教、哲学——その境界を揺さぶるユダヤ教」、神戸・ユダヤ文化研究会、第1回文化講座

(市民講座) 影浦亮平(2023)、単独、「SDGsの考え方」、飯田学輪大学、飯田市

3. 主な経費

学会の年会費と出張費

4. その他の特筆すべき事項（表彰、研究資金の受入状況等）

京都外国語大学の共同研究費

専修大学社会科学研究所の客員研究員

(本文は2ページ以内にまとめること)